

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「に」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「に」は数えません。

に書きましょう。ただ

セリヌンティウスは、すべてを察した様子でうなずき、刑場一ぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しく微笑み、「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて、はじめて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕に唸りをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それから嬉し泣きにおいておい声はなな泣いた。

(太宰治 「走れメロス」より)

答え

3

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

kyozaisupport.com

【問題】 次の文章の中から「の」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「の」は数えませんが、

に書きましょう。ただ

「いったいどうなるのかしら。」と女の人^{おんな ひと}が考^{かんが}えていると、おどろいたこ
とに土^{つち}の中^{なか}がもぞもぞ動^{うご}いていました。
芽^めが土^{つち}の中^{なか}からのびてきたのです。によきによきのびて、しだいにはつばを
つけました。まるでチューリップのようでした。それからもどんどん育^{そだ}っ
ていって、あつという間^まに大き^{おほ}なつぼみをつけました。赤^{あか}色のつぼみでし
た。しかし、つぼみができると急^{いそ}に静^{しず}かになりました。ずっとつぼみは閉^と
じられたままでした。
女^{おんな}の人^{ひと}はその後^{あと}もじっと見^みつづけていましたが、なかなか花^{はな}が咲^さかない
のに気^きづくと、ため息^{ためいき}をつきました。

(ハンス・クリスチャン・アンデルセン 大久保ゆう訳「おやゆび姫」より)

答え

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「や」に○をしていくつあるか数えて

に書きましょう。ただ

し、読み仮名の「や」は数えません。

むかし、あるところに、おかあさんのやぎがいました。このおかあさんやぎには、かわいいこどもやぎが七ひきあって、それをかわいいがることは、人間のおかあさんが、そのこどもをかわいいがるのと、すこしもちがったところはありませんでした。

ある日、おかあさんやぎは、こどもたちのたべものをとりに森まで出かけて行くので、七ひきのこどもやぎをよんで、こついいきかせました。

「おまえたちについておくがね、かあさんが森へ行ってくるあいだ、気をつけてよくおるすばんしてね、けっしておおかみをうちへ入れてはならないよ。あいつは、おまえたちのこらず、まるのまま、それこそ皮も毛もあまざずたべてしまうのだよ。あのわるものは、わからせまいとして、ときどき、すがたをかえてやってくるけれど、なかに、声はしゃがれて、があがあごえだし、足はまっ黒だし、すぐと見わけはつくのだからね。」

(グリム兄弟 楠山正雄訳「おおかみと七ひきのこどもやぎ」から)

答え

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「い」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「い」は数えませんが、

に書きましょう。ただ

ある日の事でございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっていらっしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊らは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう。

やがて御釈迦様はその池のふちに御佇みになって、水の面を蔽っている蓮の葉の間から、ふと下の容子を御覧になりました。この極楽の蓮池の下は、丁度地獄の底に当って居りますから、水晶のような水を透き徹して、三途の河や針の山の景色が、丁度覗き眼鏡を見るように、はっきりと見えるのでございします。

(「蜘蛛の糸」芥川龍之介)

答え

文字さがし

ねん

くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「り」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「り」は数えませんが、

に書きましょう。ただ

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分
学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張つても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃し立てたからである。小使いに負ぶさって帰って来た時、おやじが大きな眼をして二階ぐらいから飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云ったから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

（夏目漱石「坊ちゃん」から抜粋）

答え

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「リ」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「リ」は数えません。

に書きましょう。ただ

二足にひきの蟹かにの子供こどもらが青じろい水みずの底そこで話はなしていました。

『クラムボンはわらったよ。』

『クラムボンはかぶかぶわらったよ。』

『クラムボン跳はねてわらったよ。』

『クラムボンはかぶかぶわらったよ。』

上うえの方ほうや横よこの方は、青あおくくらく鋼はがねのように見みえます。そのなめらかな
天井てんじょうを、つぶつぶ暗くらい泡あわが流ながれて行いきます。

『クラムボンはわらっていたよ。』

『クラムボンはかぶかぶわらったよ。』

『それならなぜクラムボンはわらったの。』

『知らない。』

(宮沢賢治「やまなし」より)

答え

文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「て」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「て」は数えませんが、

に書きましょう。ただ

かぜた
風立ちぬ、いざ生きめやも。

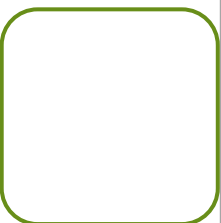
くち　つ　で　き　わたし　わたし　もた　まえ
ふと口を衝いて出て来たそんな詩句を、私は私に靠れているお前
かた　て　くち　うち　く　かえ
の肩に手をかけながら、口の裡で繰り返していた。それからやっとお前は
わたし　ふ　た　のぼ　い　かわ
私を振りほどいて立ち上って行った。まだよく乾いてはいなかったカンヴ
あいだ　いち　くさ　は
アスは、その間に、一めに草の葉をこびつかせてしまっていた。それを
ふた　が　か　た　なお　くさ　は　と
再び画架に立て直し、パレット・ナイフでそんな草の葉を除りにくそう
にしなから、

「まあ！　こんなところを、もしお父様にでも見つかったら……」

まえ　わたし　ほう　む　あいまい　びしょう
お前は私の方をふり向いて、なんだか曖昧な微笑をした。

(堀辰雄「風立ちぬ」から)

答え



文字さがし

ねん
くみ
なまえ

【問題】 次の文章の中から「て」に○をしていくつあるか数えて
し、読み仮名の「て」は数えませんが、

に書きましょう。ただ

兵十は立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめました。

そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。

「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。

「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は火縄銃をばたりと、とり落としました。青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

(新美南吉「ごんぎつね」から)

答え